

# Alert

反天皇制運動 48号  
[通巻 430号]  
2020年  
6月9日発行

第2期・反天皇制運動連絡会

野次馬日誌 \* 9 集会の真相 \* 10 反天日誌 \* 12 集会情報 \* 12

- 反天ジャーナル —— 井上森、捨てられし猫、映女 \* 3
- 状況批評 ○ コロナ19が照らす日本 —— 佐野通夫 \* 4
- 書評 ○ 竹内康人著『韓国徴用工裁判とは何か』 —— 蝙蝠 \* 6
- 太田昌国のみたび夢は夜ひらく（120）
  - 口コロナの時代に知る「マヤ文明最古の建築跡発見」 —— 太田昌国 \* 7
- マスコミじかけの天皇制（47）（壊滅天皇制・象徴天皇教國家）批判 その12  
新天皇（夫妻）の「コロナ見舞い・医療関係者感謝」メソセージはなぜなかつたのか  
—— 天野恵一 \* 8

今日の Alert ○ この世の苦境に天皇の「おことば」も「皇位継承」問題もお呼びでない！ —— \* 2

友人への私信

先日は電話ありがとうございます。久しぶりで長話が出来て楽しかったよ。けど、君の議論にはやっぱり納得できないので少し反論する。

知らぬ間に感染していて他人にうつすのは怖い、自分は加害者になりたくない、と君は言う。前半は当然のことだと僕も思う。それを君が自身の行動の基準とすることには異論はない。だが「加害者」については違和感が強い。感染が先進国で急速に拡大した理由やそもそも発生原因に人間や今の社会の在り方が絡んではいても、これは自然災害だよ。感染症の拡大という事態に加害者という言葉を使ってしまったら、感染や発症という現象を犯罪視することになる。

それに、君が自身の行動基準を他人にも同様に求めれば、それは道徳的な脅迫となる。「あなたのコロナ対策がみんなを救う」は「あなたの失敗がみんなを殺す」と裏表だ。君にそのつもりがなくても君の論理は「お前は加害者なのか」と問い合わせるものになる。その先にいるのは道德警察＝自肃警察だぜ？ 法的拘束力のない緊急事態宣言が機能したのは、元から強いこの国の同調圧力と道徳的脅迫の成果だよ。政府は今回の事態を、有事に「国民」をどう動かすかのシミュレーションと考えているはずだ。感染症を前にして罰則もないのに自由を手放した僕たちの姿を彼らは忘れない。感染症が仮に抑え込めて、その先にはこれまで以上に息苦しい社会が僕たちを待っている。君の論理は、君が大嫌いな現政権の政策を支えることになるんだよ。そんなのおかしいだろ？

また今度ゆっくり話をしよう。できれば電話じゃなくてちゃんと会った方がいいな。その時まで、元気で。

(加藤匡通)



250円

- 定期購読をお願いします（送料共年間4000円）
- 郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス  
東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル2A 淡路町事務所気付 落合ボックス  
TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://www.ten-no.net/mail:hanten@ten-no.net>
- 以前の情報はこちら▶ <http://hanten-2.blogspot.jp/>

今月の

*Alert*

# この世の苦境に、天皇の「おことば」も 「皇位継承」問題も、およびでない！



五月一五日、「緊急事態宣言」は全国解除されたが、東京では増減を繰り返す感染者数や外出自粛要請など相変わらずだし、社会的弱者への打撃はこれからさらに過酷なものとなるだろう。自分たちの損得やメンツしか頭にない者たちによる政治は、人々の生活・生存権をどうじん追い詰めつあるのだ。

そのような状況にあって、天皇の「お言葉」を待つ言論は少なくない。どれだけの人が本当に待っているかといえば、それどころではないというのが大半のはずだ。しかしメディアは、天皇・皇后がこのコロナ状況下でなんからの動きを見せることを期待し、期待通りでないことに不安や焦りを示し始めている。これらの報道は、天皇一族の言動が苦境下の人々を救い、社会はそれを願っているといつた空気を作りだすだろ。

もちろん私たちも、天皇たちがどう動くのかについて無関心ではない。人の不幸の上での生き生きと活動するのが天皇たちであり、そこに存在価値を見出す社会であれば、今はその「慈愛」の天皇を売り出す「絶好のチャンス」だ。それを作り出せる人ばかりではないが、それができていないことへの不安と心配をメディアは作り出してくる。実際、天皇たちは大きく動くことはできずにいる。そのことについてはすでに本紙でも言及されている。だからこそ、「女性・女系」容認派等々の論者にそれぞれ語

「お言葉は、メッセージは、文書は、なぜ出ないのか」と、一大事のことく問い合わせ、その事情を忖度しては読者に伝える。また、コロナ状況下で天皇たちのイベントも「自粛」となり、露出度が激減していることを心配する。それがどうした、どうでもいいではないか、とは決して思はせてはならないのだ。倒産、閉店、解雇、食費・光熱費・家賃が払えない、といった声があふれる中で、天皇の一言を待つ……。

そのこと自体、ただただこの国の政治の貧困を示しているだけである。そして天皇（制）とはその貧困な政治の一部であり、その時々の政権に、現在であれば安倍政権に付随し、政策を別の次元で補佐するだけの権威的存在でしかない。その天皇の不作為をエクスキューズをするメディアは、天皇制を領導し、作りだす側に立っているのだ。メディアが作りだす言論に要注意だ。

メディアは、もう一つの天皇に関する「心配事」、「皇位継承問題」でも少々盛り上がりを見せている。政府は「立皇嗣の礼」以降に検討を始めるところ、「立皇嗣の礼」を延期し、相変わらず「男系男予」を原則とするという。これらについて、週刊誌も新聞もそれぞれの立場で取り上げていて。たとえば『東京新聞』は五月一七日から七回にわたり「代替わり考 皇位の安定継承」という連載を組み、「男系男予」派、「長子主義」派、「女性・女系」容認派等々の論者にそれぞれ語られた。どのような苦境下でも社会は動く。私たちもめげずにじぶつ。

「お言葉は、メッセージは、文書は、なぜ出ないのか」と、一大事のことく問い合わせ、「女性・女系」容認派等々の論者にそれぞれ語られた。私たちもめげずにじぶつ。

（桜井大子）

らせた。

日々新しいものがあるわけではないが、「リベラル」で一定の評価を得ている『東京新聞』

紙上で、「男系男子主義」の旧家の復帰やその子孫との養子縁組やらが堂々主張されてしまう。さらに気持ちを暗くするの

は、記事の全てに共通している「皇室の存亡がかかる」という、「皇室内の男女平等意識だ。また、この連載のどこで女性論者が出てくるのだろう、いつ「皇室内の男女平等意識だ。また、この連載のどこで女性論者等と、それに伴う社会的な影響への期待」といった論が登場するだろう、これまた暗い気持ちで読んでいた。しかし最後まで登場しなかった。それを代弁するかのような「長子主義」論を、最後の回で君塚直隆が展開しているだけだ。

『東京新聞』が端から女性論者を除外することは考えられない。では、女性たちはなぜ登場しなかったのだろうか。とても興味深い現象だ。依頼された女性たちには「女性・女系天皇」容認で変わらざるうこの社会への展望が見出せなかつたということとか。あるいは書かれた原稿がボツにされたか…。これからその理由が見えてくるのだろうか。このひどい状況下にあって、小さな楽しみが出来たのかもしない。

## ふたつの自粛をつなぐもの

## ディストピアで死ぬのは嫌だ！

## 男権派の「皇統護持作戦」

「緊急事態」のなか、P.P研の座談会によばれた。「コロナ自粛」と「昭和×ゲーの自粛」との対比が話題に。「今回の自粛は、健康をまもるために必要なこと。全然違う」という意見が出て、「ちょっと危つい議論じゃないか」といった。

コロナ自粛と天皇自粛は、当然名田も違う。しかし、「自粛」を成立させるメンタリティーは、天皇制国家に生きる民衆に共通のものだ。自粛警察、要請と強制が限りなく接近してしまった希薄な権利意識、市民運動の雪崩的な停止状況……。

市民運動の中から、「権力と危機を共有する」とへの危機感が著しく低下していると感じる。これはもつと警戒すべき事態なのだ。国家やシステムの危機がわたしたちの危機とは限らない。私たちはもつと自律的に、私たち自身の政治や方針を持つべきだ。

「4・29」に変わらぬ密集体形をみせた機動隊をみよ。密談に励む公安の連中をみよ。5月13日に立川基地ではヘリの部品が落なし、隊員一七〇人が人海戦術で2センチのボルトを探し出した。不要不急の訓練と、そのつじつま合わせに注がれるエネルギーをみよ。彼らは気ままにやっている。「御所」に引きこもつたあの一家もまた。私は「コロナよりも、批判の切れ味が鈍るほうがよっぽど怖い」。

(井上森 立川テント村)

二ール・ブルムカンプ監督の『第9地区』(二〇一〇年公開)の舞台は、上空に巨大難破船が浮かび、異形の難民たちが地上で収容されてから28年後のヨハネスブルクだった。次作『エリジウム』(二〇一二年公開)の始まりは破壊され汚染された一一五四年の地球上の都市サンゼルスで、その遙か上空の宇宙空間には、地球を脱出したひと握りの富裕層が暮す巨大なスペース・コロニーが静止している。どちらの映画も、アパートヘイトや難民をめぐる現実のテーマを反映させた近未来のファンタジーのはずだった。

だが横浜のクルーズ船以来、症状が酷くなるまで待たされた挙句に死んでいくコロナ感染者のニュースは、もはや日本の現実こそが、そんな世界であると告げた。虚飾に満ちた政権とグロテスクな医療政策によって感染者が増え、患者も医療従事者もそこに縛られていたことが、次第に報じられてきたからだ。

エリジウムにはスーパーな医療技術があった。人々はそこで治療を求めて侵入を試み、時には撃ち落とされ、また逮捕・送還されてもきた。最後にすべての人間を市民として認識するよう書き換えられたシステムがまず発した指令は、地球上に必要な医療を提供せよ、だった。嘘で塗り固めた政権が一掃されるのは近未来、まで待てないぞ。

(捨てられし猫)

東京新聞では五月から七回にわたって皇位継承をめぐる主要な議論を載せている。男権派vs長子派(女性天皇派)の意見に集約されるが、天皇は男でなければならぬ、とする男権派に注目。

男権派は、戦後皇籍を離脱した旧宮家の男性の皇籍復帰を唱えている。  
ところで、戦後皇籍離脱をした旧宮家はすべて今から六〇〇年前の室町時代の後花園天皇の弟貞常親王の系統の伏見宮である(末木文美士著『日本思想史』(岩波新書、二〇一〇)、日本の政治思想を王権vs神仏との関係で読み解いた著作)。

駄場裕司著『天皇と右翼・左翼——日本近現代史の隠された対立構造』(ちくま新書、二〇一〇年)によれば、男性天皇を主張する保守派のルーツは、幕末の政治対立、討幕派・天皇家派vs公武合体派・伏見宮系(旧)皇族派にまでさかのぼれる。

さらに、昭和天皇のポツダム宣言受諾を認めず、彼に代わる「皇統護持作戦」をひそかに繰り広げた伏見宮系の動きが男系天皇主義なのだと。その動きは、戦後ずっと続いており、三島由紀夫の事件もその一つといつ。彼らはポツダム宣言を受諾した昭和天皇を認めず、ひそかにクレーデタを企て、あくまで米英に対する徹底抗戦を計画していた。そして伏見宮系の男子を新天皇に据える計画であったとのこと。

かれらの天皇家乗り取り計画は成功するであろうか。(映女)



## 状況批判

想・状況批判

# コロナ19が照らす日本

佐野通夫（即位大嘗祭違憲訴訟原告）

「コロナ19（WHOの命名せ COVID-19）だ、すっかり「田舎」の奪われた三ヶ月であるが、そこには照らされているのは大日本帝国憲法トと変わらない日本の姿である。必ず厄災は「外」からやつてくるという見方である。「コロナ19対策センター」ではなく、「帰国者・接触者相談センター」が置かれている。あって「武漢（それもウーハンでなくフカン）ウイルス」と呼ぶ人たちがいる。日本国内で事態がひどくなるまでは、人々に中国差別意識を植え付けるために利用しようとした。諸外国からは「韓国モデル」と呼ばれ、一ヶ月で市民生活を取り戻した隣国の知恵に学ぼうとはしない。中国・韓国に対する蔑視は侵略・植民地時代と変わらない。さじたま市は備蓄しているマスクを子どもが集まる施設の職員に配布することを決定したが、当初朝鮮幼稚園を対象外とした。日本の諸法の中で感染症対策法だけは国籍条項がない。ウイルスは国籍や民族によって避けるものではないからである。一部の子どもたちを感染の危険にさらすことは、決して許されないとあり、また地域の感染予防という観点からも許される行為ではない。「転売されるかもしない」という発言もあり、マスク配布が感染予防より「恩恵」であるかの捉え方である。

このようにウイルスに対して科学的に対処しようとしない。「接触者相談センター」であるならば、感染者と「接触」したと感じる人すべてを検査すべきであるのに、日本では重篤化しない限りは検査を受けることができない。医療制度の整っている国であるならば、臨床医師が検査を必要と思えば、検査ができるなければならないのにそれもできない。第二次世界戦争下の竹槍訓練を思わせる非科学性である。また、検査数のコントロールによって「感染者数」も「ントロールされる。戦時下大本営発表の大戦果」と同じである。コロナ19対応としてまずなされたのは、(月)「要請」による全国の「休校」であった。森内浩幸長崎大教授は「休校は感染拡大の防止には

つながっていない」とする（東京新聞五月二〇日）。「感染症の予防上必要があるときは、臨時に、学校の全部又は一部の休業を行うことができる」のは学校の設置者である（学校保健安全法第二〇条）。首相は学校設置者に対し指示できる権限を持つていない。しかし、ほとんどの学校設置者が首相の言葉を「忖度」して、いきなりの休校を決めてしまった。これで前から「立法院の長」とも自認していた首相は「まさに……『朕は国家である』（検察官法「改正」反対検察OB意見書）路線をひた走ることになった。あたかも大日本帝國憲法下の「天皇」であるかのように。二〇一一年の地震の後には「天皇」がテレビに登場して現代の「玉音放送」（臣民慰撫の天皇メッセージ）を振りましたが、今回は自ら絶対君王となつたと誤認してくる安倍が、たびたび「記者会見」に登場し、内容のない言辞を連ね、それをすべてのテレビ局が放映するという体制が作られている。

四月七日「緊急事態宣言」がなされ、学校を含むさまざま業種に「営業自粛」が求められた。科学的根拠などないものだから、終期は連休が終わる五月六日、そして延長した後の終期も五月三一日。ウイルスに連休や人間のかレンダーなど、関係あるものか。科学的根拠があるものならば、科学的に必要な期間、必要な制限をきちんと立法化し、正当な補償の下に営業停止が命じられなければならないものを「自粛」という名の強制を行ない、補償はなされない。戦時下の「志願兵」が周囲の圧力の中で無理やり志願されたのと同じである。「自粛警察」という危うげな相互監視まで登場している。一九三三年関東大地震時、朝鮮人虐殺を行なった「自警団」を思い出させる。経済活動を「自粛」の名の下にむりやり止めさせることによって生活困窮となつた人々には何の救済もない。ようやく住民登録のなされている人一人一〇万円の「特別定額給付金」が支給されることになつたが、そのような制度を作らなければならぬといつこと、そして四月二〇日に閣議決定しなが

ら、実際には六月に入らないとその一〇万円は届く見込みがない状況というのでは、感染症によるものでなくとも、ふだんの暮らしの中で私たちが生活困窮になつた際、なんらの助け(セイフティーネット)もないと示している。

学費や生活費などに困窮する住民税非課税世帯の学生等には一〇万円、それ以外の学生には一〇万円を支給する「学生支援緊急給付金」が、五月一九日に発表された。しかし、留学生のみには成績上位三割という制限が付された。また、給付金の対象は学校教育法上のいわゆる「一條校」と、専修学校で専門課程をおく「専門学校」とされ、それ以外の朝鮮大학교などの「各種学校」は、対象外にされた(しかし、外国大学の日本校は対象にされている)。このように自肃体制によつて生活が脅かされても、人々はおとなしい。NHKが報じるのは戦時の「隣組」を思わせる「人々の助け合い」である。私の街では朝九時半と午後一時に「防災無線」から「外出を控えましょう」という放送が流れる。これまた戦時の空襲警報だろうか。役にも立たない「アベノマスク」が配られるときれ(まだ届かない)、医療機関には高価な消毒液が有償で届けられる。戦時の配給制度だろうか。老舗『四世同堂』の中で、人々は日本軍の北京占領によつて物資が統制され、不足するのを怒る。しかし、日本の中では「ほしがりません勝つまでは」である。

裁判すらも「延期」させられている。日本国憲法第32条は「何人も、裁判所において裁判を受ける権利を奪はれない」とし、特に刑事案件については同37条で「被告人は、公平な裁判所の迅速な公開裁判を受ける権利を有する」と「迅速」という言葉まで入つてゐるにわかかわらず。私たちの「即大違憲訴訟」も延期とされ、現在のところ、いつ行なわれるかわからない。諸集会の会場も不當に閉鎖されている。

入国管理局の外国人収容所では、「三密」状態で収容が継続される。コロナ19では、高齢者、基礎疾患のある人などが犠牲になつてている。権力にとつてみれば、年金・医療費、収容経費などの金のかかる層が減るありがたいウィルスなのかも知れない。韓国ではコロナ19の経済的影響が低所得層、非正規職において大きいことが示されている(五月二二日、KBS「日本のNHKに相当」ニュース)。日本において、そのような調査、報道に接したことはない。大日本帝国軍隊において将校が「何人死ねば勝てる」と言つとき、その死者数は日本軍兵士の数であつたことを思わせる状況である。

先に記したように、このコロナ19禍にあつて天皇一家はなりを潜めている。「立皇嗣の礼」も延期とされた。その中で、次のような記事がある(読売新聞オンライン五月一七日)。

「着任しても「次期」駐日大使のまま……トンガなどの6人、信任状奉呈式行えず／日本に着任しながら「次期駐日大使」にとどまつてゐる大使が6人に上つてゐる。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、天皇陛下が新任の大使からあいさつを受ける「信任状奉呈式」を行えないとめためだ。／(略)大使を正式に受け入れるのは信任状の奉呈後だが、宮内庁は今年4月9日に予定していたトンガとルワンダの大使の信任状奉呈式を延期。以降、式を行う見通しは立つていない。／6人とも信任状の写しを外務省に提出して外交活動は行えるため、実務的な支障は生じていないという。(以下略)」

「信任状奉呈式」自体には疑義があるが、「外国の大使及び公使を接受すること」は日本国憲法に定められた天皇の国事行為である。憲法に定められた国事行為も行なわないでもむなれば、天皇など「象徴」としても不必要であることを示している。そして国事行為以外の「公的行為」などなおさら不必要的ものである。「立皇嗣の礼」は延期とされてゐるが、そんな儀式が行なわれることのないまま、代替わり事態になれば、秋篠宮は「立皇嗣の礼」がなかつたから天皇にならなじとは言わぬんだろう。皇室典範第四条によつて「天皇が崩じたときは、皇嗣が、直ちに即位する」のだから。

コロナ19禍にあつて、学校の卒業式、入学式も変形、縮小を余儀なくされた。しかし、その中で卒業式の時点では「君が代」は省略するなどという指示も出された(大阪、東京)。天皇儀式を始め、儀式などもともと必要なものなのである。

コロナ19が照らし出した大日本帝国憲法下、戦時下と変わらない人々の心性。「政治的」課題と異なり、自らの生命に関わるものであるから、人々は簡単にだまされないだろ、政策に关心を持つだろと思ったが、その心性は変わらなかつた。いや、それは天皇制を維持したことから当然に引き継がれてゐるものであろう。改めて天皇制を廃棄し、日本の過去を清算し、人々の新たな結びつきをめざさなければならない。



## 竹内康人『韓国徴用工裁判とは何か』

——岩波ブックレット 110110年1月 本体620円+税

戦後処理、なかでも戦争賠償と戦後補償は、それが長期にわたる植民地支配の後に問題化したときには、困難を極めるのが当然だ。第二次大戦後の日本政府は、奸智を駆使してこれらの義務をディスクラントするとともに、賠償の支払いを経済・技術協定にすりかえ、これの遂行を、逆に国家間の贈賄や日本企業にとってのビジネスに変貌させることで乗り切ろうとした。その過程で、ないこととして扱われたのが、侵略され収奪された側の個々の実態であり、國家の犯罪の認知と謝罪の表明もなされなかった。

日本国家は、敗戦後すぐさま侵略支配の事実や資料の隠蔽をばかり、とくに朝鮮に対しても、日本が旧植民地の宗主国であったために賠償請求権を否定し、南北の政治分断や国内政治の独裁体制も利用して「解決」をもぐるんだ。一九六五年の日韓基本条約の締結により、この問題は「完全かつ最終的に解決」されたものとみなされた。しかし、軍隊性奴隸制など、条約の締結時に明らかにされていなかつた問題の存在と、国家に対する個人賠償、慰謝料請求権についてなど、国际法の認識の枠組みが大きく変わりはじめた。新たな事実の発掘や、被害者個人が声を上げられる環境の拡大とともに、戦争責任や戦後責任、賠償や補償も、大幅に見直されているのが現在の状況である。

竹内さんは、教職にあつたときからずっと、戦時の朝鮮人強制連行と強制労働の歴史について調査研究を続けてきた。その成果は、すでに『戦時朝鮮人強制労

働調査資料集1・2』(神戸学生・青年センター出版部)、「調査・朝鮮人強制労働1～4」(社会評論社)などに、大部の資料としてまとめられている。ここで紹介するブックレットは、現在の日韓関係において、もっともホットで重要な問題としてある、「元徴用工」に対する賠償請求についてである。

一九一八年一一月の、韓国大法院における三菱重工に対する判決は、戦時生産のために、名古屋や広島に強制的に動員・連行された人びとに向けられたものである。彼らは逃亡防止のため有刺鉄線で囲まれた粗末な住環境におかれ、長時間労働の給与は「強制賃金」として渡されず、その半額は帰国後の送金すらされなかつたという。原爆や地震の被害を受けたり、帰国船とともに没した人びともいた。こうした事実の認定すら、徴用と強制動員、強制労働をさせた企業は隠蔽しようとおそうとしていたのだ。この裁判では、名古屋高裁が元勤労挺身隊の女性の請求を退けながらも、三菱重工の不法行為を認め、これが未解決であるとした。これが国際法に反する強制労働であつたことと、国家無答責論による免罪を退けるとともに、三菱重工の企業としての継続性を認定した。これにより、原告たちはあらためて韓国で訴訟を提起し、韓国大法院における堂々たる判決をかちとつたのだ。

この裁判の概略は、第四章「韓国徴用工判決の意義」にまとめられている。韓国大法院は、日本の植民地支配が合法であるという認識を否定し、強制動員自

体が不法であるということを認定した。さらに、こうした不法行為への個人による損害賠償請求権が消滅しないから、不法行為に対する損害賠償請求権について韓国の外交保護権も放棄されていないとしたのだ。日本の植民地支配における反人道的不法行為などについては、日韓条約の文書も新たに公開されており、個人の請求権が消滅していないという認識が確立した。これにより、強制動員・強制労働をさせた企業の反人道的不法行為を、被害者個人が直接に問い合わせ、尊厳を回復するという道が開かれたのだ。日本政府・外務省は、李明博や朴槿恵らによる圧力を想定していたのだろうが、それは見事に覆つた。

安倍らの政府と外務官僚、戦前戦後の継続性から個人請求を認定される可能性のある企業、それらの意を汲むメディアや、これに同調する野党も含めて、この問題では反韓国の大合唱をいまも繰り広げている。そればかりか、経済的な「報復」措置を実施し、韓国の右派を対象とする宣伝工作も実施している。しかし、この裁判を通じて鮮明になつてゐる、国家政策の尖兵化した企業活動の文字通りの犯罪性は、もはや否定できないだろう。

このブックレットは、問題をわかりやすく整理してくれている。読みながら、「徴用工裁判」を超えて現在の日本政府に寄生する企業活動やその不正を問つたの論理を模索したくなつてきた。

**太田昌国 の夢は夜ひらく 120**

みたび

なんでもコロナウイルスのせいにしてよいわけはない。個人的なレベルで言えば、自分のうちに怠け心が頭をもたげるたびに、そう思う。公共的なレベルで言えば、コロナの正体が突き止められない間は、公衆衛生・医療の場で対応に当たる部局・人びとが選択する方針に、過ち・不十分さ・読みの浅さなどが生まれるのは〈時に〉止むを得ないだろうが、同じ公共のレベルでも社会・経済・政治の局面で感染症対策に当たる部局と職業にはそれは許されるものではないだろう。その点から見て、日本の政治・社会の現在の有り様には、この間の、とりわけ二〇一二年・第一次安倍政権成立後の政治の〈貧しさ〉を直接的に反映している現実を見ざるを得ず、複雑な思いを抱く。政権の存続を許してきた社会全体としては、自己批判を込めて「自業自得」と考えるほかはないがゆえの苦い思いだ。ここでは、なんでもコロナのせいにするわけにはいかない、コロナ以前にも確かに存在していた不正義や諸矛盾を改めて心に刻まなければ、と自戒する機会にしておきたい。

こんな時代だから、コロナを離れたニュースを見聞きすると、いくらかほっとする。もちろん、中国政府の強権的な対香港政策や米国の警官による黒人虐殺などのように、いつそ胸が潰れるも

## コロナの時代に知る「マヤ文明最古の建築跡発見」

のもあるが、今回は別な話題を取り上げたい。

イギリスの科学誌『ネイチャ』六月四日付電子版に「マヤ文明最古の建築跡発見」に関する論文が掲載された。場所はメキシコ南東部タバスコ州で、グアテマラとの国境に近いアグアダ・フェニックス。国際研究チームが飛行機に積んだレーダー測量装置（ライダー）で観測した研究結果と現地での発掘調査に基づいて、南北一四〇〇メートル、東西四〇〇メートル、高さ二五メートルの、土を積み重ねた大基壇の存在が明らかされた。周囲には、中小の広場や舗装された土手の道九本、人口貯水池がある。放射性炭素年代測定によると、これが建造・増改築されたのは、紀元前一〇〇〇年から八〇〇年にかけて、つまり一〇〇〇年をかけたと推定されている。もとより、さらに詳しい調査・分析は今後の課題となるだろうが、注目すべきは次の点だ。明確な社会階層を示す遺物がないことから、権力者が登場し中央政府のような組織ができるところで社会に階層分化が起こる前に、この大建築が造営されたと推定できるが、だとすれば、超越的な存在の権力意志なくして大規模な共同作業が可能だったこと、人びとの自発的な意思に基づいて共同体のアイデンティティーを確立しようとしてそれは建造されたことを示しているかもし



れない。それは従来の文明觀を覆す発見となり得る（論文そのもの、および日本語各紙で引用された共同研究者の猪俣健氏＋青山和夫氏の談話による）。有名な古典期マヤ文明の神殿ピラミッドは、いつたん上って石段を下りようとすると、その垂直性と石段の歩幅の狭さに足がすくむ思いがするが、それは取りも直さず、諸王の権力を誇示する様式だった。今回の調査チームが、アグアダ・フェニックス遺跡は「社会的な不平等が小さくても大規模な共同作業」が可能だったことを示していると強調することには十分な理由がある。

考古学上の発見には、時に衝撃的なものがある。二〇世紀初頭、地中海のクレタ島での発掘作業が明らかにした古代都市国家社会では、『女神』が至高な存在であったことから、戦争の痕跡がなく、経済は繁栄し芸術は栄えていた。戦争も支配のための階層性も女性の隸属性も必要としない社会組織が成立していた。男性支配原理の〈絶対性〉を信じてやまない怠惰な精神を震撼させたのである。

論文に付された地図を見ると、この遺跡の位置は、一九九四年に現代資本主義の象徴たるグローバリゼーション・新自由主義の趨勢に抗し、「自由、民主主義、正義」を求めて蜂起したサバティック民族解放軍が、その後四半世紀有余にわたって自主管理を続けている地域の遙か後方を流れ るウスマシンタ河の北側に位置していることが知られる。コロナ以前にもあり、コロナ後にもいつ そう進行しかねない「格差と分断」の世界を思 うとき、人類史にあり得た／あり得る「頭なき」 「水平的な」社会の夢は、何度も見てみたい。

壞憲天皇制・象徵天皇教國家

批判  
その12

**新天皇（夫妻）の「口ナ見舞い・医療関係者感謝」メッセージはなぜなかつたのか？**

天野 恵一

私たちの「安保・沖縄・天皇制」を問う4・28  
4・29連続行動は、二八日は室内会場が使用で

きず中止、二九日の「反昭和の日」行動はデモのみ実施。

「右翼の暴力的介入がまったくない『反天テモ』は十何年ぶりじゃーないか。とんだコロナ効果だな？」

宣伝カーの中では運転手に語りかけた、「私の最初の言葉である。残念ながら（？）、スタートして間もなく旭日旗を手に、ハンドマイクも持参（いかにも右翼という感じの）が一人路上に現れ喚き出した。そして途中で「日の丸」をぶつている男がもう一人。デモの解散地ではその二人は合流して、もう一人の人物と三人で立ってわめいていた。一グループは登場したようだ。

間を長く取った、マスクをつけたデモ隊の列は、ダラダラと長くなつたが、機動隊は今回も直接的

規制を避けた。人通りの少ない路上に、「天皇制はいらぬ！」の声が大きく響き渡った。警察車両は、「一〇〇人のデモ隊が通ります」をくりかえしていたが、実数は八五人くらいのデモ。とにかく「ロナ・パニックの状況下で、私たちの「表現（デモ）」の自由」を実行する運動は、なんとか持続できた。

『週刊文春』（5月21日）には、「天皇・雅子さま『口口ナお見舞い』文書はなぜ出ない」のタイトルの記事がある。

は出席がかなわず、入学式は中止になるなど、天皇への影響も大きい。明年から雅子さまが名譽総裁を務める日本赤十字の全国大会も、例年月の開催が中止」。

なっています。日本では、段階的に状況が変わったこともありお見舞いの「メントを出すタイミングが難しく、見計つているうちに機を逸した感がある。陛下は医療従事者へのねらいいや国民への感謝のお気持ちを表明したく、公表を念頭に尾身氏への「メントを作成された模様です」（同前）。

この後、即位一年の五月一日にも、コロナ禍のムードと即位という慶事との矛盾を意識してか、コメントは「だつて」と続いている。

自己の政治的演出の力量が、新天皇には不足している、ということか。

五月二二日（日曜日） 芽室一、一、一  
ス女王一家は、ビデオ電話を使って、ファミリー総動員（笑顔と拍手で医療関係者を称える王子

(孫)たちで看護師たちへの賛辞を送つてみせた。イギリス王室はその国家(政治)的任務を果こし続いている。

そのＴＶ映像を観ながら、日本赤十字の名誉会長である皇后雅子は、そして天皇は、なにもパ

フォーマンスをくりひろげなかつたのは、何故か  
と思った。

オリンピック実現優先で後手後手にまわった安倍政権の「データラメなコロナ対策（そしてコロナ危機利用のオノ兼政台）」というウス切り政治への

人々の怒りは、日々強まっている。こんな時にこそその慈悲深さを印象づける政治（パフォーマンス）こそが支配者が必要とする象徴天皇（制）の任務。思ったより、ドジ（それとも明仁への小泉

信三のよつな有能なアドバイザーがない結果か。出遅れ〈象徴〉の次の一手に批判的に注目していい。

# 一野人思日記

5月1日～5月31日

東京五輪聖火リレー◆新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により翌年に延期された東京五輪の聖火リレーについて、主催者の大会組織委員会が計画見直しの検討を始めたことが分かる。

**[5月1日]**  
徳仁◆即位から1年となつたとして、宮中祭祀「旬祭」に臨むため、皇居を訪れる。

久子◆故高円宮の妻が、公益財団法人日本ハンドボール協会と、一般社団法人全国ママさんバレーボール連盟の名誉総裁に就任。

**皇位繼承策**◆国民民主党の玉木雄一郎代表が記者会見で、「徳仁の即位から1年を迎えたことを踏まえ、安定的な皇位継承策について早期に検討を開始するよう政府に求める。「新型コロナウイルスで非常に難しい状況だが、速やかに議論を始めもらいたい」。女性天皇、女性宮家、旧宮家（旧皇族）の皇籍復帰など、さまざまな議論をしなければならない」。

**[5月2日]**  
靖国問題◆北朝鮮の朝鮮中央通信が、安倍晋三首相らが前月21日に靖国神社の春季例大祭に合わせて「真榊」と呼ばれる供物を奉納したことについて「侵略歴史を美化して軍国主義の亡靈を復活させようとするものだ」。日本全域に新型コロナウイルスが拡散、緊急事態が宣言された中で供物奉納が行われたと指摘し、「日本反動層の変わらない野望」の表れだと主張。

**[5月5日]**  
ヘイトクライム◆靖国神社の敷地内にある公衆トイレで、新型コロナウイルス感

染症の震源地となつた中国湖北省武漢市の人を「皆殺しにする」などと中傷する落書きが見つかった。

**[5月9日]**  
皇位繼承策◆政府が安定的な皇位継承策を巡り、前年秋に始めた非公式の識者ヒアリングを終えた。女性・女系天皇と、

男系維持に向けた旧宮家（旧皇族）の皇籍復帰の是非を軸に10人以上から聴取し、結婚後も女性皇族が皇室に残る「女性宮家」創設を含め、今後は論点整理に着手する。

**[5月11日]**

雅子◆皇居にある養蚕施設「紅葉山御養蚕所」を訪れ、「御蚕始の儀」に臨む。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、作業に当たる人を5人から1人に減らし、飼育する品種を日本純産種の蚕「小石丸」だけに絞った。

**[5月12日]**

秋篠宮、紀子、眞子、佳子◆新型コロナウイルスの感染拡大を受け、ビデオ会議で、秋篠宮が総裁を務める社会福祉法人「恩賜財団済生会」の関係者から説明を受ける。

**[5月13日]**  
ハンセン病追悼式◆国の不当な隔離政策を受け、自身が総裁を務める社会福祉法人「恩賜財団済生会」の医療従事者らをねぎらうメッセージを同会に寄せ、同会がホームページで公開したと報道。メッセージで、2月の済生会有田病院（和歌

鹿児島国体◆鹿児島県で10月に予定される第75回国民体育大会に関し、主催者の県や日本スポーツ協会が新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、6月中に開催可否を判断する方針。

**[5月14日]**  
美智子◆宮内庁が、美智子に微熱の症状が出ていると明らかに。側近は「疲れが出たのではないか」としている。

**[5月15日]**  
伊勢神宮参拝◆三重県伊勢市が、大型連休中の4月29日～5月6日の伊勢神宮の参拝者数が7174人と、昨年の同時期と比べて9・1%減ったと明らかに。

**[5月19日]**

京都・葵祭◆葵祭が京都市で開催され、下鴨神社で関係者のみの神事を行つ。沖縄「慰靈の日」◆沖縄県の玉城デニー知事が記者会見で、太平洋戦争末期の沖縄戦で組織的な戦いが終わつたとされる6月23日の「慰靈の日」に開催する沖縄全戦没者追悼式の規模を、大幅に縮小すると発表。

**[5月19日]**  
秋篠宮◆新型コロナウイルスの感染拡大を受け、自身が総裁を務める社会福祉法人「恩賜財団済生会」の医療従事者らを原爆死没者名簿◆広島市中区の平和記念公園で、原爆慰靈碑下の石室に納められている3万9186人分の原爆死没者名簿を外気に当てて湿気を取り除く「風通し」が行われる。

**[5月12日]**  
草津音楽アカデミー◆8月に開催予定だった音楽祭「草津夏期国際音楽アカデミー＆フェスティバル」を中止すると発表。同音楽祭は、明仁、美智子が在位中から静養の間に訪問するのが恒例で、

山県）での感染事例に触れた上で「感染の危険性に対峙しながらも、高い使命感を持ち、献身的に医療を行つておられる姿に深く敬意を表します」。

**戦死者遺骨**◆ロシアなどで収集した戦没者遺骨の取り違え問題を受け、厚生労働省が遺骨を日本人かどうか科学的に鑑定する専門組織を設置する方向で検討している。これまで検体採取後の遺骨は現地で焼いていたが、今後は焼骨しない方針に転換。

**[5月20日]**  
徳仁、雅子◆赤坂御所で、新型コロナウイルス感染者の治療に当たる医療現場の状況や課題について、日本赤十字社の大塚義治社長らから講話を受ける。徳仁が冒頭、医療従事者に対して「深い敬意と感謝の気持ちを表します」。「このような状況が長期化する中、皆さんのお疲れもいかばかりかと察じていますし、心ない偏見に遭う方もおられる」と聞き配しています。日赤の名譽総裁を務める雅子「懸命な医療活動は、多くの患者さんの命を救つてこられたものと思います」。

美智子はピアノのワークショップにも参加してきた。

〔五月  
二十一日〕

**皇室行事◆**宮内庁の西村泰彦長官が定例記者会見で、新型コロナウイルスの感染

拡大で延期や取りやめが続く、徳仁・雅子や皇族が出席する行事の再開後の在り方について、同庁で検討を始めてしていることを明らかに。「今までのような形は当分難しい」としつつ「国民との接点をなくすことはあり得ない。何らかの形で工夫してやっていくべきだ」。出席行事の在り方は、感染状況や政府の方針、主催者の意向などを踏まえ検討する。

**【5月22日】**  
徳仁◆政府が、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言中に、新聞記者らと賭けマージャンをしていた東京高検の黒川弘務・検事長の辞職を閣議で承認。徳仁が「裁可」して辞職が正式に認められる。

# 集会の「眞相」

五月三日、「安倍首相は『緊急事態宣言』を撤回しろ! 生活を保障しろ! 命を守れ!』」「ロナを改憲の

口実にするな！5・3改憲反対デモが行われた。呼びかけは、「戦争・治安・改憲NO！総行動」（以下、「総行動」）。16時に新宿アルタ前に集合し、16時30分から新宿駅周辺を一周するデモを行つた。参加者は一三四名。先立つ五月一日には、同地で17時30分からメーデー情宣。その際の参加者は八〇名。

**徳仁**◆皇居内の生物学研究所の隣にある水田で、恒例の田植えをする。

10月が開催可否を判断する重要な時期になるとの見通しを明らかにしたと、地元オーストラリアン紙などが伝え、再延期はできないとの考えも改めて示したと報道。大会組織委員会が、「一つの委員長の発言について「Nのような話はない」。

開すると発表。京都仙洞御所、桂離宮、修学院離宮も同日から参観再開となり、事前申請も受け付ける。

宮が総裁を務めている。

ための正義記憶連帶」(正義連)の尹美香前代表らの「不正会計疑惑」に關し「約

30年の活動が政争の口実になつたり、誰も中傷や極右派による悪用の対象になつたりしてはならない」。

◆加藤勝信・厚生労働相が、第2次大戦中に海外などで死亡した身元不明の戦没者を慰靈するため、千鳥ヶ淵戎神社に参拝して、太鼓を打つ。

難没者墓苑を訪ね  
【5月28日】 南行

**明仁**◆皇居にある生物学研究所を訪問するため、皇居を訪れる。マスクをつけ車で仮御所を出て、皇居・乾門に入る。

雅子◆皇居にある養蚕施設「紅葉山御蚕所」で、蚕に餌の桑の葉を与える「給桑」の作業に取り組む。

【原爆の日】◆菅義偉・官房長官が記者会見で、縮小開催の方針が示された8月の広島原爆の日（6日）と長崎原爆の日（9日）の両式典への安倍晋三首相の出席に関し「今後調整していく」と述べた。



